

LAMP-FLP 法によるイネいもち病菌の薬剤抵抗性検定技術

利用対象：病害虫防除所、公設試、検査サービス企業

- ◎ イネいもち病の効率的な防除のために、QoI 剤および MBI-D 剤の抵抗性菌発生状況を把握したいが、検定における人員やノウハウの不足が課題である。
- ◎ イネに発病した葉いもち病斑から簡易に取り出した遺伝子について、LAMP-FLP 法による薬剤抵抗性検定技術を開発した。
- ◎ イネいもち病菌を分離・培養・保存する必要がなく、簡単に検定結果が得られることから、薬剤抵抗性イネいもち病菌のモニタリングに活用できる。



図 1 遺伝子調製液の作製

TE バッファー 400 μ l に、葉いもち病斑を入れ、激しく上下に振る（20 秒×3 回）。
100 μ l を別チューブへ入れ保管する。

反応調製液

増幅酵素、10×反応バッファー、dNTPs Mixture、ddWater
Primer Mix、FProbe Mix

遺伝子調製液

2 μ l

LAMP-FLP 反応

QoI 65 $^{\circ}$ C 30 分
MBI-D 68 $^{\circ}$ C 30 分

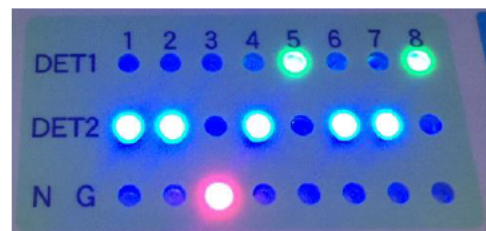


図 2 LAMP 法用測定装置「LF-8」による自動判定

DET1：抵抗性菌、DET2：感受性菌、NG：未反応

お問い合わせ先	三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 電話 0598-42-6360
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm